

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100046		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームやないづ 1階		
所在地	岐阜県岐阜市柳津町梅松1丁目91番地1		
自己評価作成日	令和7年1月28日	評価結果市町村受理日	令和7年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100046-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホームやないづでは、個々の入居者様を中心とした介護をテーマにサービスを提供しております。個別対応を重視した介護として食事、機能訓練、生活スタイルを定期的な調査を行い随時確認更新し、ご家族様ご協力を仰ぎながらその人らしさを追及するグループホームとなります。また愛の家グループホームやないづでは、ご入居者様がいつまでも長く健康に過ごせられるように一日の水分摂取量、食事量、排泄、睡眠、血液データ、他多数。これらを往診医と共有し、いち早くご入居者様の体調の変化に気づけられるようにデータを使用して早期発見に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、地域交流に力を入れ、「シェアキッチン」と称する、地域の独居高齢者に参加を募り、ホームで調理して食事をしてもらうという取り組みを行っている。孤立しがちな独居の方が、他者と交流し、楽しく過ごす時間を持つこと、困りごとがあれば行政等に繋げて行く場となることを目的としている。また、広く地域に広報を行う、「ふれあい会」を開催し、家族の他にも地域の福祉施設や保育園の園児が参加し、地域からも50名を超える参加を得ている。ホームの地域資源としての役割を考えた、地域との関わり、地域課題に向き合うきっかけにしたいという思いで、積極的なアウトリーチの活動に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼では運営理念・介護理念を唱和、ホワイトボードに個人目標を記入。スタッフは意識付けをし、利用者にとってより良いサービスを目指している。	入職時に、理念の意味と意義を理解するための研修機会がある。職員は、日々の唱和で意識づけに努めるほか、毎朝の朝礼で、その日の個人目標を立て、夕礼で振り返り評価を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、近隣の方へご挨拶する。 ご利用者様に回覧板を持って頂いております。 またご近所の方が花の植え替えを行って頂いております。	地域住民や自治会との交流で、地域ニーズの「認知症や介護について知りたい」を把握し、ホームで講演会を企画したり、ホームに相談窓口を設置する等、認知症介護の拠点を目指して取り組んでいる。また、「ふれあい会」開催や、「シェアキッチン」等、地域の社会資源としての役割を果たしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月、運営推進会議を行い、ご利用者やご家族、行政などへ報告、相談を行っている。	家族、民生委員、市役所担当課職員、地域包括支援センター等の参加がある。ホームの運営報告を基に意見交換を行い、質疑応答を通じて認知症と認知症介護の理解を啓蒙している。民生委員に、町内会等へ、ホームの行事案内等のチラシ配布を依頼する等、ホームからの協力依頼の機会にもなっている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員の方へホーム内の情報提供を常に行っている。	市の担当部署とは、ホーム運営にかかわる相談・報告を通じて連携している。運営推進会議の参加を得られ、ホームの実情理解を推進するとともに、行政情報等を共有し、適切なホーム運営に反映させている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についてホーム内研修を行っており、どのような行為が身体拘束にあたるかを常に話し合っている。	身体拘束を行わないことを原則とし、定期的な研修やOJTによる指導を行っている。3ヶ月毎に法人の不適切ケアチェックシートを用いた日常業務の評価を行っている。職員の意識は高く、身体拘束を行わない工夫を話し合う環境がある。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケア防止の取り組みを行っている。各月に研修を行い、チェックシートを活用しケアの見直しを行っている。	身体拘束の取り組みと同様に、不適切ケアチェックシートを活用し、不適切ケアへの理解を促している。咄嗟に出る声掛けについても、言い換えや抑揚に焦点を当て、受取り手の立場に立った言い方を指導している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修を行い勉強をしています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などは時間をかけて、ご質問頂いた際には分かりやすく説明しご理解を頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、またそのご家族の意見や要望を常に伺い、要望に沿ったケアを行っています。	面会時、電話等の直接の聞き取りのほか、メール、SNS等、家族の状況に応じたコミュニケーションツールを補助的に使い、利用者の様子を伝えたり、ホーム運営や支援内容についての意見・希望等を聞いている。また、法人が実施する家族アンケートの結果を、ホームのサービス改善に活用している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議・ユニット会議・個別面談の実施において、スタッフの意見や要望を聞く機会を設け、取り入れています。	職員からは、普段の日常業務中や会議等で、意見や提案が活発に挙がる環境がある。また、定期的な個別面談では、個人目標の振り返りのほか、公私に渡る情報共有に努め、それぞれの立場からの意見や提案を聴取し、運営や支援内容に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	公休希望を取り入れたシフトを作成しています。	職員からは、良好な職場環境であると評価を得ている。仕事とプライベートのメリハリを重視し、できる限り残業をしない職員間の協力体制がある。希望の休みが取れるシフト調整で、身体、精神的なストレスの軽減を図っている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回ホーム会議・ユニット会議を開き研修を行っています。外部の研修が受けられる際には全スタッフに呼びかけを行っています。	法人の年間計画に基づき、各種研修を実施している。また、資格取得支援やキャリアパス制度等を活用し、スキルアップを目指す職員の育成に努めている。外部の求人イベントに、職員がホームの代表として参加する等、育成には実績がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターの方と一緒に同業者の方と集まりサービスの質についての検討会、その他勉強会をおこなっております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との関わりを多く持ち役割なども助け合い、一緒に生活しているという気持ちを大事にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を大切にし本人様の意向を伺えるようにしている。意思疎通の出来ない方に対してはご家族様から意見を伺っている。	従来のアセスメント方式を変更し、居室担当者が中心となり、利用者の状態や状況に応じて、随時の見直しを行っている。利用者との向き合い、本人の言動の背景を探り、真の思い等を把握に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やホーム会議でご本人様やご家族様の意見、思いを伺い本人様の意向に沿ったケアプランの作成を行っています。	3ヶ月を定期的に、状態や状況に変化があった場合に、随時の見直しを行っている。職員意見と併せ、アセスメントや介護記録を参考にモニタリングを行い、本人と家族の意向を反映させた介護計画を立案している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、状態の変化などを記録に残しケアプランの更新の際に活かしています。	電子記録をメインに、チェック方式の記録の他、日常の様子が伝わる、適切な自由記述の記録方法を指導し、情報共有を徹底している。様々な記録内容を、支援内容の検討や介護計画見直しに活用している。事故防止を目的として、服薬に係るチェック表のみを紙媒体で行っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状態やご家族様の意向を伺いながらケアプランに活かしています。	様々なコミュニケーションツールを家族ごとに使い分け、直接では言いにくい、要望や意見を吸い上げている。また、退去時に、ホームで撮りためた写真データ等を提供する等、ホームとして、利用者だけでなく、家族の気持ちを大切に支援提供に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な外出支援を行い、楽しみを作っています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回提携医が往診に来てくださいます。	ホーム協力医の月2回の訪問診療を支援している。24時間のオンコール(コミュニケーションツール活用)体制もある。ホームの看護師を中心に、医師と連携を図り、適切な医療につなげている。専門医受診等は家族対応を原則とし、緊急時等必要に応じ、ホームが対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご利用者様の情報を医療機関に提供し入院中の経過につきましてはご家族様から連絡を頂く事や、担当看護師から情報を得る事も行います。	入院時には、医療機関に、詳細な情報提供を行っている。入院中は、ソーシャルワーカー、家族等と情報共有を図り、早い時期から、退院後の受入れ準備を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの研修を行い、最後まで住み慣れたホームで生活が出来る様体制を整えています。	入居契約時に、重度化にかかわるホームの指針を説明し、同時に意向確認を行っている。看取りまでの支援希望は多く、状態変化の都度、話し合いを重ね、家族の希望に沿って看取り介護に移行している。職員は、研修や看取り後の振返りの積み重ねを、介護の実践につなげている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて定期的に急変時や事故発生時などの研修を行っています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行っています。 水害想定地域であり、備蓄品は2階に水や食料を保管しています。	ホームの立地は、床上浸水が想定される地域にあり、避難訓練は火災、水害、地震を想定し、夜間想定を含め、年に2回実施している。自治会とは、運営推進会議等で、災害時の地元住民との協力体制や、避難住民のホームでの受け入れ等を話し合っている。地域住民の受け入れを想定した備蓄準備がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調ではなく人生の先輩であることを忘れず丁寧な声掛けをするようスタッフは意識しています。	職員は、利用者が年長者であることを忘れず、言葉遣いや態度は、利用者の受け止め方を考え、丁寧に接している。排泄や入浴介助時には扉を閉めて対応するなど、プライバシーや気持ちに配慮している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から希望を聞いたり、要望を言われない方に対してもこちらからお声を掛けさせて頂き、自己決定できるよう努めています。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など決められていることもありますが、本人様の1日1日を大切に希望に沿えるよう支援しています。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり調理の準備や食器洗い・お盆拭きを一緒に行っています。	ホームの庭には畑があり、収穫した季節野菜を調理し、食卓を彩っている。買い物や調理、片付けは、職員と一緒に、得意な利用者が役割として行っている。食を絡めたイベントを企画し、「ふれあい会」では、利用者と一緒に作った豚汁をふるまう等、利用者の張り合いや楽しみを支援している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をあまり摂って頂けない方に対しても対応方法を変え、その方に合った物を提供し、なるべく1日 1500cc以上摂って頂けるよう支援しています。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助させて頂いております。拒否される方に対しても根気よく声掛けさせて頂いております。週一で歯科衛生士に口腔ケアをして頂いております。	毎食後の口腔ケアをサポートし、できる範囲で自身の歯磨きを促している。義歯はその都度外して洗浄し、次の食事まで職員が管理している。必要に応じ、歯科医の訪問診療を受け、歯科衛生士の専門的な口腔ケアの実施と指導で、良好な口腔内管理を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中、夜間ともにトイレでの排泄を大切に声掛けを行い本人様に合わせた排泄支援を行っております。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決まっていますが、本人様の希望を聞き入浴して頂いております。拒否される方に対してもその方の状態を見ながら声掛けなど工夫しております。またイベント開催時には入浴剤を入れる事や池田温泉に入浴も行きます。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動して頂いておりますが居眠りされている方に対しては居室で休んで頂くなどの対応もしております。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の大切さを理解し、服薬ミスのない様努めています。症状の変化により看護師とも連携を取っています。	服薬事故予防を目的に、チェック表を配薬車に備え付け、準備から与薬までの各段階でダブルチェック行い、表に記載して確認している。個別の記録やファイルで管理している薬剤情報提供書を活用し、薬の増減や変更等の内容を常時確認している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や趣味などその人らしい生活を大切に希望を聞き出し、出来るだけ応えられるよう努めています。	利用者の外出希望を受け、毎日朝・夕の散歩を日課にしている。時間になると、帽子をかぶり、散歩の準備を始める利用者もおられる。また、庭の畑で野菜を作り、収穫までを楽しみにしている方もおられる。日常の様子や反応を見て、利用者一人ひとりの好きな事を探りながら支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿って買い物や喫茶店・散歩などに出掛けています。季節によってはホーム全体での外出支援も行っています。	散歩や買い物、ドライブ等を日常的に行い、戸外に出る楽しみを支援している。外食支援は、普段と異なるメニューや、店の雰囲気等が利用者の楽しみにつながり、良い気分転換にもなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル予防の為、現金はお預かりしていません。外出の際はご自分で支払いをして頂いています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話を掛けたいと要望があれば、事前許可を頂き電話連絡して頂いています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで過ごされる方も多く役割や体操など利用者様同士のコミュニケーションの場として、明るい雰囲気作りに努めています。	専任の清掃職員を配置し、共有スペースの清潔保持に努めている。掃除の行き届いた環境で、高齢者の生活環境に問題は感じられない。利用者の相性に配慮した席決め、身体機能に応じた動線を確保等、利用者が安心して過ごせる空間となっている。広い庭は、利用者の日常の活動場所として活用している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でのんびりと過ごされたり、リビングでは仲の良いご利用者様同士でお話をして過ごしておられます。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や写真などが飾っており、その方に合った居室作りに努めています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉に、表札をつけて分かりやすいようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2190100046		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームやないづ 2階		
所在地	岐阜県岐阜市柳津町梅松1丁目91番地1		
自己評価作成日	令和7年1月28日	評価結果市町村受理日	令和7年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoCd=2190100046-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホームやないづでは、個々の入居者様を中心とした介護をテーマにサービスを提供しております。個別対応を重視した介護として食事、機能訓練、生活スタイルを定期的な調査を行い随時確認更新し、ご家族様ご協力を仰ぎながらその人らしさを追及するグループホームとなります。また愛の家グループホームやないづでは、ご入居者様がいつまでも長く健康に過ごせられるように一日の水分摂取量、食事量、排泄、睡眠、血液データ、他多数。これらを往診医と共有し、いち早くご入居者様の体調の変化に気づけられるようにデータを使用して早期発見に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼では運営理念・介護理念を唱和、ホワイトボードに個人目標を記入。スタッフは意識付けをし、利用者にとってより良いサービスを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、近隣の方へご挨拶する。 ご利用者様に回覧板を持って頂いております。 またご近所の方が花の植え替えを行って頂いております。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月、運営推進会議を行い、ご利用者やご家族、行政などへ報告、相談を行っている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員の方へホーム内の情報提供を常に行っている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についてホーム内研修を行っており、どのような行為が身体拘束にあたるかを常に話し合っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケア防止の取り組みを行っている。 各月に研修を行い、チェックシートを活用しケアの見直しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修を行い勉強をしています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などは時間をかけて、ご質問頂いた際には分かりやすく説明しご理解を頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、またそのご家族の意見や要望を常に伺い、要望に沿ったケアを行っています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議・ユニット会議・個別面談の実施において、スタッフの意見や要望を聞く機会を設け、取り入れています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	公休希望を取り入れたシフトを作成しています。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回ホーム会議・ユニット会議を開き研修を行っています。外部の研修が受けられる際には全スタッフに呼びかけを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターの方と一緒に同業者の方と集まりサービスの質についての検討会、その他勉強会をおこなっております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との関わりを多く持ち役割なども助け合い、一緒に生活しているという気持ちを大事にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を大切にし本人様の意向を伺えるようにしている。意思疎通の出来ない方に対してはご家族様から意見を伺っている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やホーム会議でご本人様やご家族様の意見、思いを伺い本人様の意向に沿ったケアプランの作成を行っています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、状態の変化などを記録に残しケアプランの更新の際に活かしています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状態やご家族様の意向を伺いながらケアプランに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な外出支援を行い、楽しみを作っています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回提携医が往診に来てくださいます。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご利用者様の情報を医療機関に提供し入院中の経過につきましてはご家族様から連絡を頂く事や、担当看護師から情報を得る事も行います。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの研修を行い、最後まで住み慣れたホームで生活が出来る様体制を整えています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて定期的に急変時や事故発生時などの研修を行っています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行っています。 水害想定地域であり、備蓄品は2階に水や食料を保管しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調ではなく人生の先輩であることを忘れず丁寧な声掛けをするようスタッフは意識しています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から希望を聞いたり、要望を言われない方に対してもこちらからお声を掛けさせて頂き、自己決定できるよう努めています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など決められていることもありますが、本人様の1日1日を大切に希望に沿えるよう支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり調理の準備や食器洗い・お盆拭きを一緒に行っています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をあまり摂って頂けない方に対しても対応方法を変え、その方に合った物を提供し、なるべく1日 1500cc以上摂って頂けるよう支援しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助させて頂いております。拒否される方に対しても根気よく声掛けさせて頂いております。週一で歯科衛生士に口腔ケアをして頂いております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中、夜間ともにトイレでの排泄を大切にし声掛けを行い本人様に合わせた排泄支援を行っております。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決まっていますが、本人様の希望を聞き入浴して頂いております。拒否される方に対してもその方の状態を見ながら声掛けなど工夫しております。またイベント開催時には入浴剤を入れる事や池田温泉に入浴も行きます。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動して頂いておりますが居眠りされている方に対しては居室で休んで頂くなどの対応もしております。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の大切さを理解し、服薬ミスのない様努めています。症状の変化により看護師とも連携を取っています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や趣味などその人らしい生活を大切に希望を聞き出し、出来るだけ応えられるよう努めています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿って買い物や喫茶店・散歩などに出掛けています。季節によってはホーム全体での外出支援も行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル予防の為、現金はお預かりしていません。外出の際はご自分で支払いをして頂いています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話を掛けたいと要望があれば、事前許可を頂き電話連絡して頂いています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで過ごされる方も多く役割や体操など利用者様同士のコミュニケーションの場として、明るい雰囲気作りに努めています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でのんびりと過ごされたり、リビングでは仲の良いご利用者様同士でお話をして過ごしておられます。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や写真などが飾ってあり、その方に合った居室作りに努めています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉に、表札をつけて分かりやすいようにしています。		